

NEWSLETTER



大阪女学院大学 大阪女学院短期大学

教 員 養 成 セ ン タ ー

● 巻頭エッセイ 絆 1	● 第13回勉強会 3
● 第14回「英語の教え方教室」案内 1	● 授業の玉手箱「Time Management」..... 4
● 「英語の教え方教室」勉強会報告 2	● 書籍紹介『教師花伝書』..... 4
● 第11回勉強会、第12回勉強会 2	● 教員免許状更新講習3案内..... 4

巻頭エッセイ

絆

夫 明美

2012年を迎えました。昨年のこの時期も同じタイトルで巻頭言を作成しておりましたが、タイトルをつけるにあたり、昨年の3月11日に発生した東日本大震災のことを避けては通れません。被災地の皆さんは現在も「これまでの当たり前の生活」とは異なった生活を送られています。被災地の方々のコメントや震災直後から続く支援体制から、日々の生活が人と人の絆や人と生まれ育った土地との絆に大きく支えられていることを再認識します。かつての日々の生活を取り戻そうとするなかで、学校が果たす役割について、本学の学生たちと議論した内容をご紹介します。

本学では教職を志望する学生を対象に、センター所属の教員が「教職サークル」を担当しています。週に一度集まって、「英語教育法」や「時事問題」等について各グループが活動を継続しています。私は2011年度前期に7人の学生とグループを作り、「新聞記事にみられる学校問題」について活動を継続しました。学生が自分のアンテナに触れた新聞記事を持ち合い、議論したいポイントを参加者全員にプリントを配布で指示した上で、全員で議論を進めるスタイルです。グループの一人の学生が選んだのが、6月の朝日新聞の記事です。「間仕切り教室不便に学ぶ」というタイトルで、岩手県大槌北小学校が体育館をパネルで区切った空間で授業を展開していることを報告しています。

あげられている懸念事項は、

- パネルの仕切りだけなので、音が問題になる
- それに伴って「音読」活動に遠慮をしてしまう
- 騒がしいなかで教えたことが身につくのか心配である

その「あたりまえとは違う授業形態」から生徒が学んだことは

- 声が邪魔にならないように黒板の位置をかえる
- 話し言葉のボリュームをコントロールできるように「声のものさし」を作る
- 声だけでなく、口を大きく動かして、言っている内容を伝えるなどがあげられていました。

記事中の表現を借りると、「静けさって当たり前だと思ってたけど、ありがたかったんだね、これまでの私たちは静かな学校が「共有前提」であったと思います。まず、その点を認識することから私たちの

議論はスタートしました。次に、英語という教科の特性、つまり「発音指導では音を通さないと授業が成立しにくい」状況になったときに、どのような工夫が必要か？について意見を出し合いました。掲示物などでフォローしながら、声のボリュームをコントロールするというアイデアが出ました。また、教室や教員の確保が通常よりも難しい状況では、社会科と連携して「世界で使われている英語の」という課題や家庭科と連携して「料理スタイル、食事形式の紹介」という課題で授業を展開できる可能性について議論が展開しました。

彼女らが実際に教壇に立ったときに、困難の中で教育を継続する意義とその方法についての議論から得た授業・学校運営のアイデアを一步ずつ実践してくれることを願います。

第14回「英語の教え方教室」勉強会(案内)

平成24年2月18日(土)

「GUEP (Global Understanding through English Presentation) の授業紹介と工夫」

—兵庫県立国際高等学校での特色ある英語授業の取り組み—
兵庫県立国際高等学校 真田 弘和 教諭

SELHi 研究開発校であった兵庫県立国際高等学校は、コミュニケーション能力と多文化共生の心を総合的に身につける指導方法と評価方法の研究開発を中心課題として、英語教育のプログラムの開発に取り組んでこられた。「DDD」(Discussion Debate Drama) という独自の手法を取り入れ、語学力の養成とあわせて自己表現力や創造力の育成をめざすとともに、生徒同士の交流と相互啓発を図ることに今でも取り組んでおられる。



今回、真田先生には、学校設定科目として担当されているGUEP (Global Understanding through English Presentation) の授業の取り組みの紹介と工夫についてお話をいただきます。さまざまな学校の教員の一人一人が、生徒の英語力向上のために日々真摯に授業実践に取り組んでおられます。その取り組みへの情熱と工夫を共有しませんか。皆様のお越しをお待ちしています。